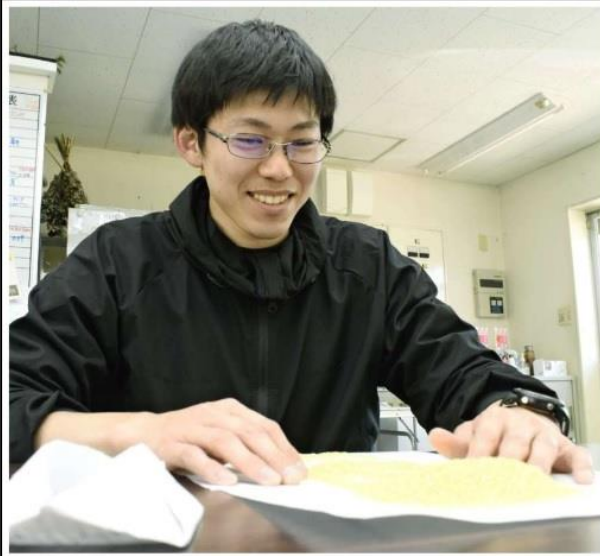


年 組 名前:



キビの選別作業
に取り組む高橋
優二郎さん＝大
月市富浜町宮谷

地域協力隊・高橋さん



高橋 優二郎 (大月市)
武田 寛明 (北杜市)
赤池 悠 (上野原市)
飯野 悠 (都留市)

大月市の地域おこし協力隊員の高橋優二郎さん(27)は、市内の農家が生産した農作物を東京都内のスーパーに卸す活動に取り組んでいる。将来的には農家として独立し、市特産のウコンやスパイスとして知られる「キヌア」の栽培を目指す。高橋さんは「無農薬や有機肥料にこだわった高品質な野菜をつくる人も多い。大月の野菜の魅力を伝える人を増やしていきたい」と語る。

〈飯野悠平〉

大月の野菜 都内に販路

3店に卸売り「魅力伝えたい」

高橋さんは、ダイコンや白菜など旬の野菜を東京都日野市のスーパー3店舗に週1回の頻度で卸している。卸す日の朝に農家を巡って回収し、スーパーに届ける。販売コーナーには「大月市産」や「無農薬」といった言葉を自立させたポップも設置しており、「大月の野菜の魅力が伝わるよう、広告物にも力を入れている」と語る。

市内のマルシェで顔を合わせた農家から野菜を廃棄することがあると耳にしたことがきっかけ。収量がなくなった場合の売り先がないことが要因と知り、「都内のスーパーに持っていくことで無駄になる食べ物が減ればいい」と考えた。農家に協力を打診して始めた。

高橋さんは宮城県出身。大学卒業後、建設現場のアルバイトやITのシステム開発などの仕事を転々としていたが、子どものころに描いていた「農業をしたい」という思いをかなえるため、地域おこし協力隊員になることを決めた。知人の紹介で昨年11月から大月市の隊員となり、活動している。

現在は市内の農業法人「野草のさと」のスタッフとして、市特産のウコンやハーブ、キビの栽培や加工、出荷や商品開発などに携わっている。隊員としての任期が2026年に終了した後も、大月市内に残り、独立して農業に携わりたい考え。特に、ウコンやスパイスとして知られる「キヌア」といった作物の栽培を考えている。「食へのことで健康な体づくりを後押しできるような農作物を栽培していきたい」と話している。

(2024年2月7日付 山梨日日新聞 15面)

問1

大月市の地域おこし協力隊員の高橋さんが、取り組んでいる活動を教えてください。

問2

販売コーナーでは、どのようなポップを設置していますか。

問3

今後、高橋さんは何を栽培したいと考えていますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.